

名古屋高速道路公社 運営会議

(第59回)

令和2年11月19日



— 目次 —

	ページ
はじめに	1
I “これまで”の名古屋高速～経緯と実績～	
1 50年の歩み	
（1）設立及び第1期開通	4
（2）ネットワークの変遷	5
（3）交通量と開通延長の推移	7
（4）償還準備金の推移	9
（5）料金支払形態の推移	10
（6）組織の変遷	11
○ 設立50周年記念事業	12
2 名古屋高速道路の整備効果	
（1）移動性	15
（2）経済	16
（3）環境	17
（4）交通安全	18
（5）防災	19

Ⅱ “これから”の名古屋高速～未来の姿～

1	料金の抜本的変更	・ ・ ・ ・ ・	2 1
2	リニア中央新幹線の開業に向けた建設事業の始動	・ ・ ・ ・ ・	2 3
3	広域ネットワークの充実と利便性の向上	・ ・ ・ ・ ・	2 5
4	未来に向けた着実な取り組み		
	(1) 安全・安心への取り組み	・ ・ ・ ・ ・	2 7
	(2) 持続可能な社会の実現に向けた取り組み	・ ・ ・ ・ ・	2 9
	(3) 新技術・データ活用	・ ・ ・ ・ ・	3 1
	(4) お客様サービスの向上	・ ・ ・ ・ ・	3 2

名古屋高速道路公社 経営理念

【基本理念】

いつでも「安全」「安心」「快適」な道路サービスを提供し、地域社会を支える名古屋高速を目指します。

【基本方針】

- I 都市交通施設としての役割を果たし、元気な「名古屋都市圏」づくりに貢献します。
 - II お客様を第一に考え、安全・安心・快適な利用環境を提供します。
 - III 効率的で透明な事業運営に努め、創意工夫と自己研鑽で常に進化を続けます。
- 名古屋高速道路は、平成25年11月23日に現計画延長81.2kmの全線が開通した。
 - 令和元年度では、1日平均で約33万9千台が利用しており、名古屋都市圏における社会経済活動の礎を担う。

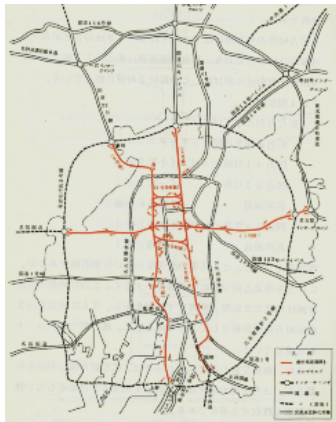
- ・本年9月24日で、名古屋高速道路公社は**設立50年**を迎えた。
- ・名古屋高速道路を日々ご利用いただいているお客様、名古屋高速道路とともに発展してきたこの地域の皆様や地元企業の皆様、建設・維持管理に携わる施工業者・委託業者・関係機関等の皆様のご支援に心より感謝を申し上げます。
- ・これからの名古屋高速道路公社は、名古屋高速道路と名古屋第二環状自動車道(名二環)を一体として広がる名古屋市周辺の高速道路ネットワークの完成、リニア中央新幹線の開業等を視野に入れ、新たな料金体系への移行や都心へのアクセスの向上を始めとした新しい事業に重点的に取り組み、進化する元気な名古屋都市圏を支えていく。
- ・あわせて、防災対策や大規模修繕等を引き続き着実に進め、都市交通施設としての基盤をより確かなものにするとともに、既存施設を有効に活用し機能を向上させることで、安全・安心・快適な道路サービスを充実させていく。

I “これまで”の名古屋高速 ～経緯と実績～

1 50年の歩み

(1) 設立及び第1期開通

- ・高度経済成長期の急速なモータリゼーションの進展を背景に、地方道路公社法に基づく全国初の地方道路公社として、**昭和45年9月に設立**
- ・環境問題による予算の一部凍結(昭和48年度予算)を経て、**昭和54年7月に初めての開通(高辻～大高)**



名古屋都市高速道路計画「⊕計画」

S45.3 愛知県土木部
都市高速道路調査室



会社の発足(旧・愛知県第4分行舎)

年	名古屋高速道路関連	道路行政/社会・経済の出来事
S27		改正道路法公布施行
S31		道路整備特別措置法公布施行 日本道路公団設立
S34		首都高速道路公団設立
S36	名古屋市における都市高速道路計画の調査を建設省より愛知県と名古屋市が受託 運輸省都市交通審議会が名古屋都市高速道路の必要性を答申	
S37		阪神高速道路公団設立 「全国総合開発計画」閣議決定
S38	「名古屋都市高速道路調査連絡会」発足	名神高速道路(栗東～尼崎)開通
S39	「名古屋大都市整備計画懇談会」発足	東京オリンピック開催
S42	愛知県土木部に「都市高速道路調査室」設置 「名古屋都市高速道路建設促進期成同盟会」発足	公害対策基本法成立
S45	『名古屋都市高速道路計画』(都市高速道路調査室) 名古屋高速道路公社設立	日本万国博覧会(大阪万博)開催 地方道路公社法公布施行 本州四国連絡橋公団設立
S46		ニクソン・ショック 福岡北九州高速道路公社設立
S48	名古屋市議会が昭和48年度予算の一部停止を付帯決議(「予算凍結」)	第一次石油ショック
S54	名古屋高速道路第1期開通(高辻～大高)	

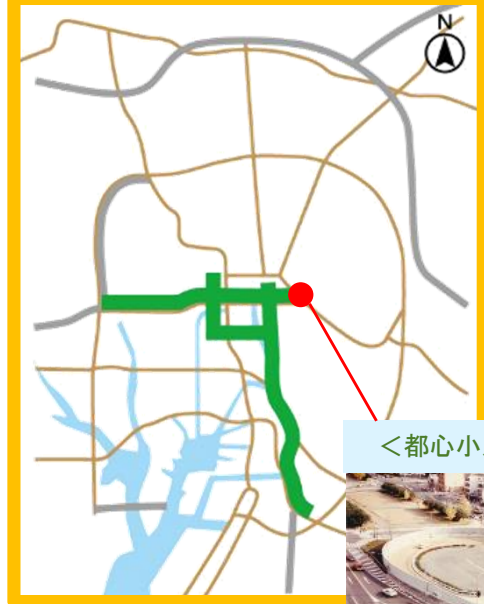
(2) ネットワークの変遷

・昭和54年度の第1期開通を皮切りに、昭和63年度に「都心小ループ」が完成、平成7年度に高速都心環状線が全線開通し、名古屋市域内におけるネットワークが順次拡大



<名古屋高速道路 初めての開通>
 高速3号大高線開通式

開通延長10.9km



<都心小ループ完成>
 吹上暫定連絡路(吹上Uターン)

開通延長28.0km



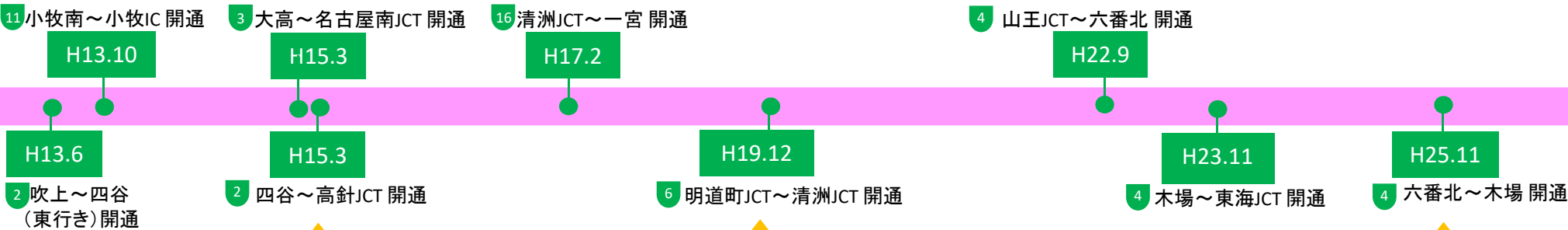
<高速都心環状線全線開通>
 高速都心環状線開通式

開通延長37.9km

I “これまで”の名古屋高速～経緯と実績～

〈1 50年の歩み〉

- ・11号小牧線の開通により名古屋市外に延伸し、平成13年度には名神高速道路と接続。平成14年度に東山トンネル開通。平成16年度に16号一宮線、平成19年度に6号清須線が開通し、周辺の高速道路と形成するネットワークが更に拡大
- ・平成25年度には高速都心環状線を中心に6方向への放射線から成る計画延長81.2kmの全線が開通。令和2年度中には、名古屋高速道路と名二環を一体として広がる名古屋市周辺の高速道路ネットワークが完成予定



＜東山トンネル開通＞

開通延長53.3km

東山トンネル内

＜第23回 名古屋市都市景観賞(まちなみ部門)受賞＞

開通延長69.2km

赤とんぼ橋(高速6号清須線)

(名二環) R2年度 開通予定

＜名古屋高速道路全線開通＞

開通延長81.2km

高速4号東海線開通式

(3) 交通量と開通延長の推移

- ・日平均交通量は、開通延長の伸びに伴い漸次増加。令和元年度は約33.9万台で、第1期開通時（昭和54年度）の約1.3万台に対して26倍
- ・料金収入は約770億円／年（約2.1億円／日）

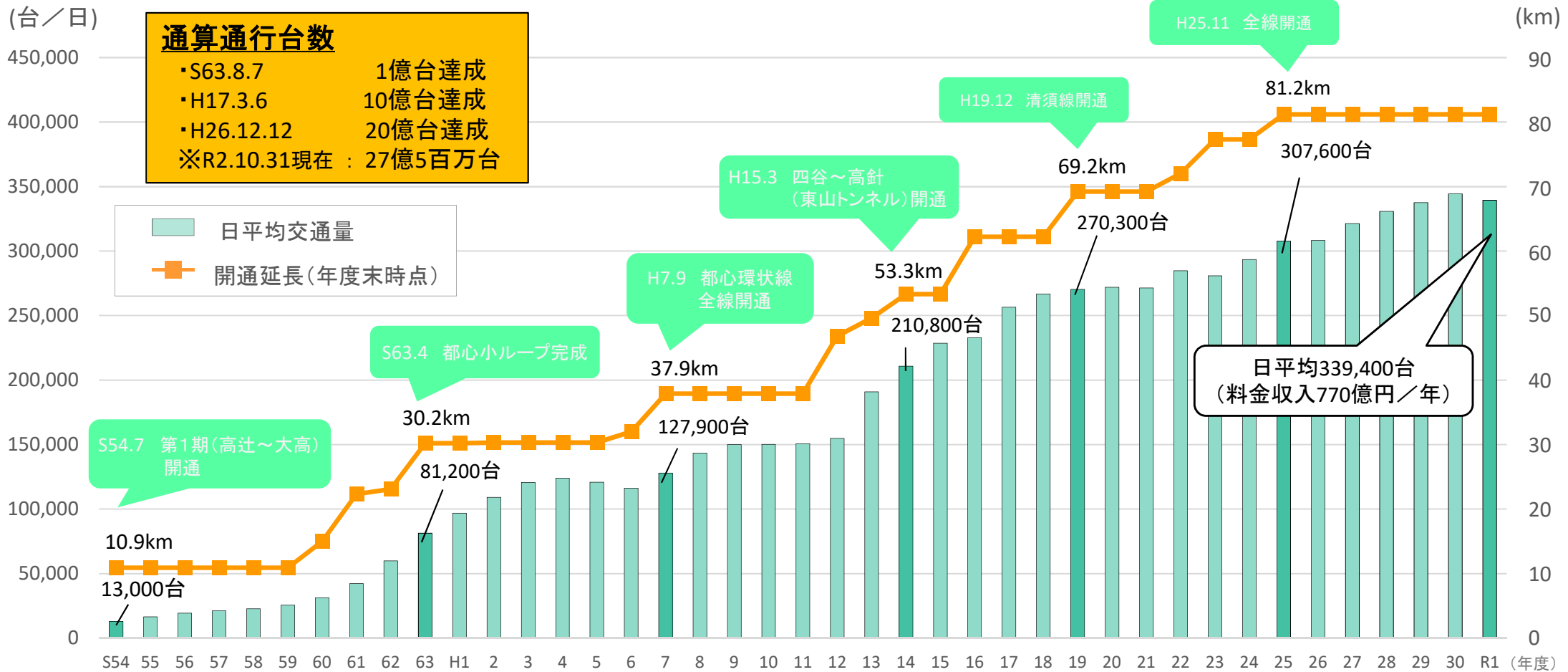


図1 交通量(日平均)と開通延長の推移

・新型コロナウイルス感染症流行下における交通変動

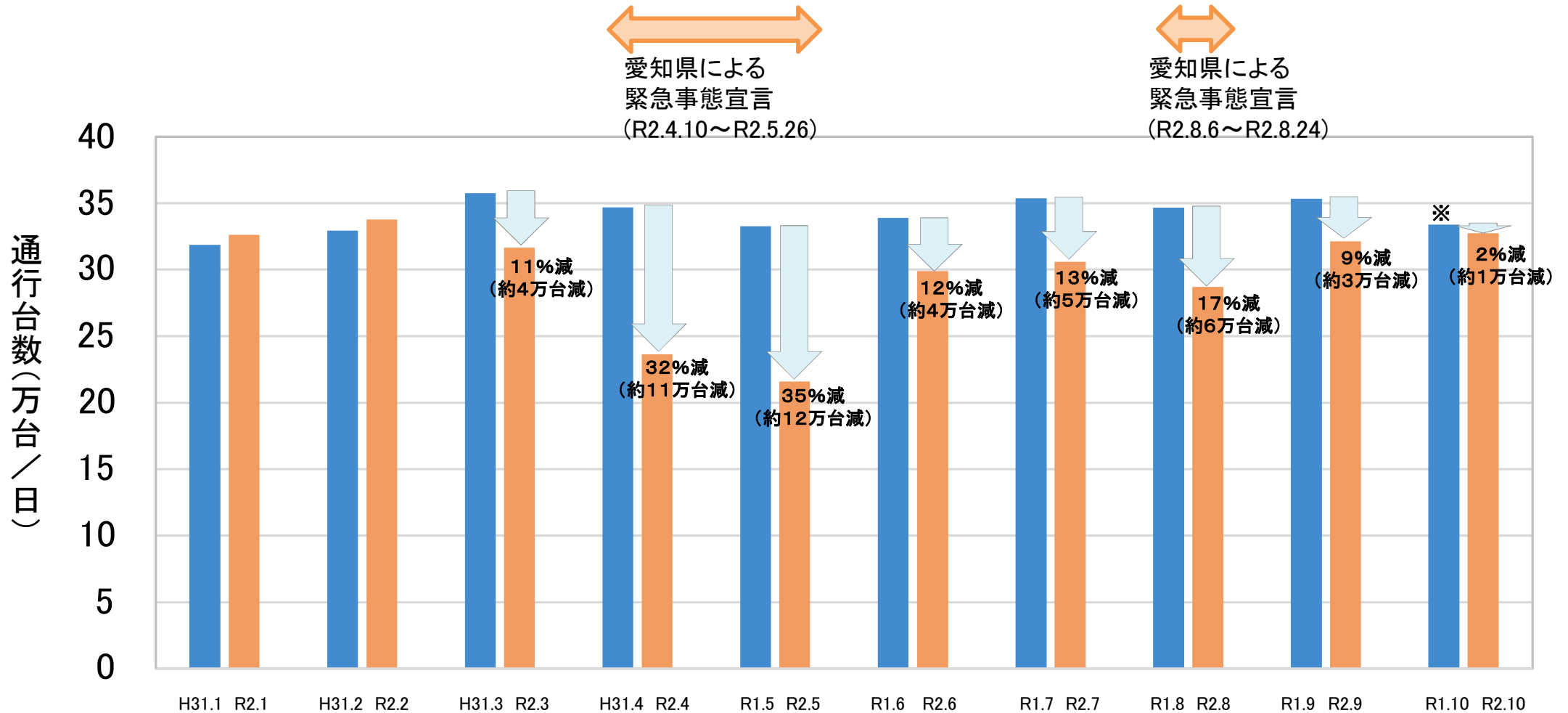


図2 月別交通変動(全日) 〈対前年比較〉

※ 台風 (R1.10)、工事規制 (R1.10・R2.10 高速都心環状線リフレッシュ工事に伴う通行止め) 等の影響あり

(4) 償還準備金の推移

償還準備金：借入金の返済に充てた償還準備金繰入の累計額
 償還率：償還準備金／償還対象額×100

- ・開通区間の拡大等に伴う料金収入の増加により、平成元年度から単年度黒字に転換、平成6年度には累積でも黒字に転換。以降毎年度償還準備金の繰入が続き、令和元年度は304億円増加し、累計で7,157億円
- ・償還対象額に対する償還準備金の比率である償還率は、令和元年度に42.9%

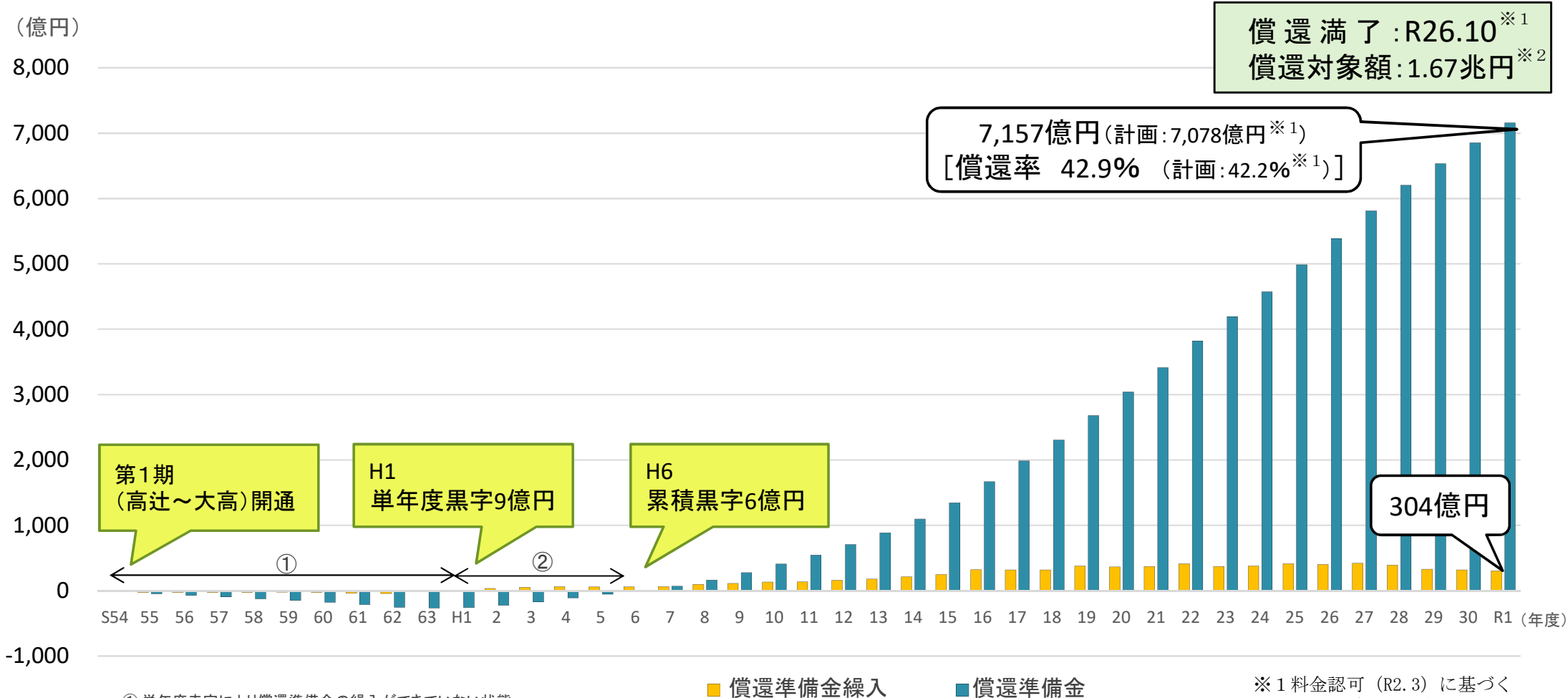


図3 償還準備金の推移

(5) 料金支払形態の推移

・第1期開通以来、料金支払形態は現金が多数であったが、平成16年3月のETC運用開始からETCが飛躍的に増加し、令和元年度のETC利用率は92.8%

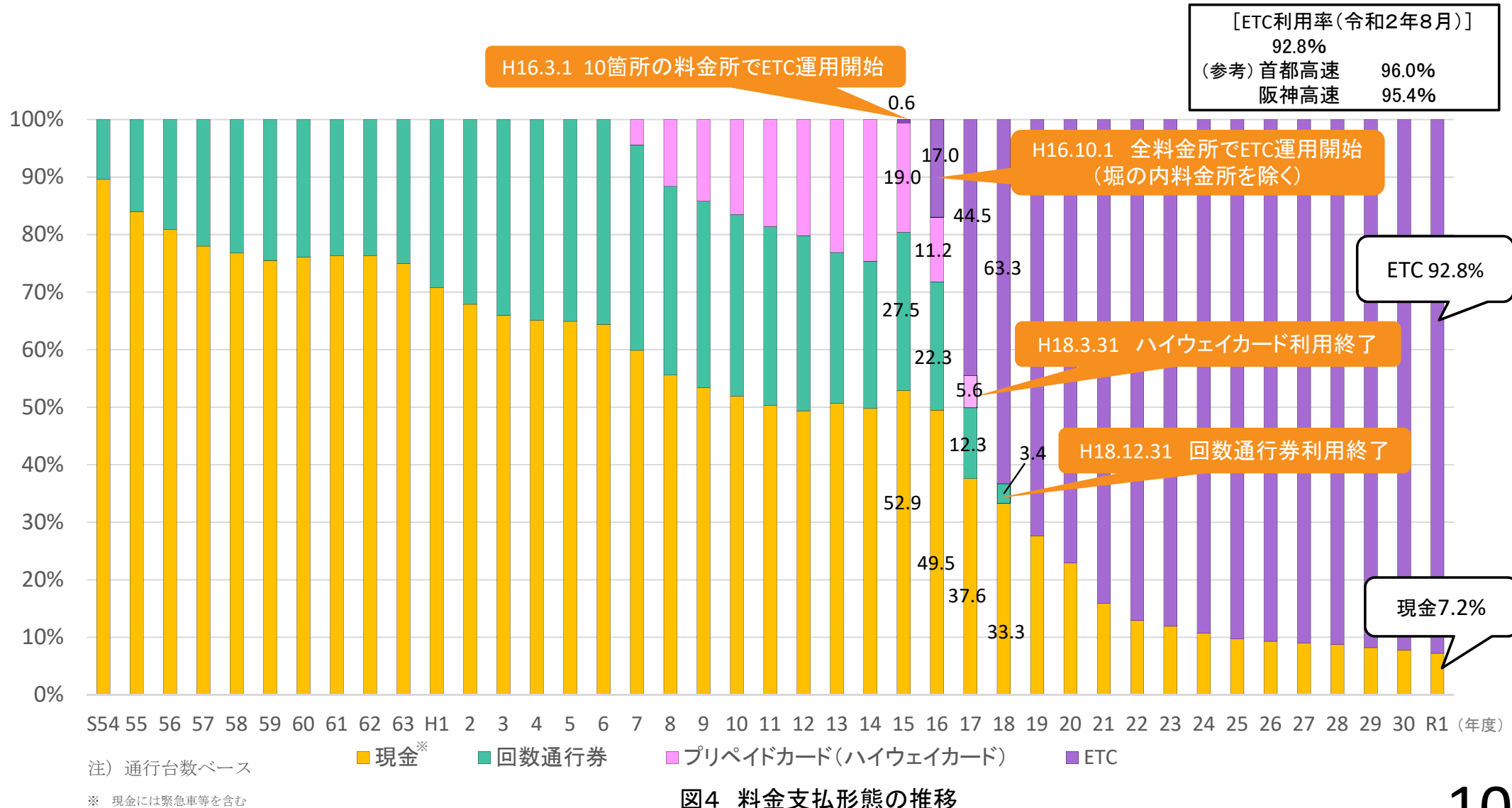
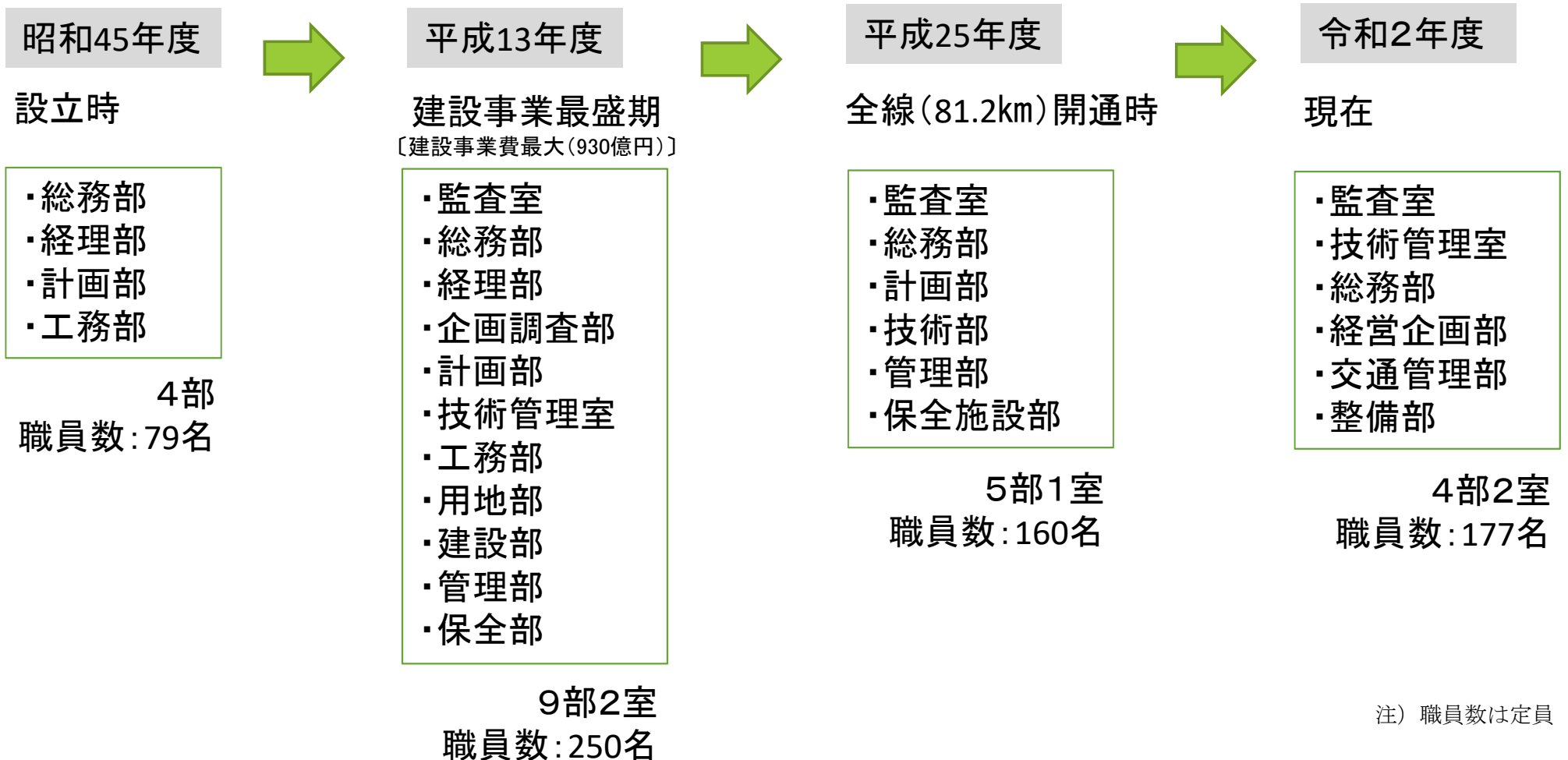


図4 料金支払形態の推移

(6) 組織の変遷

・建設事業の進展に伴い組織が増強され、**最盛期(平成13年度)**には**9部2室250名の体制**であったが、維持管理主体の組織への移行に伴いスリム化。近年は都心アクセス関連事業の始動により再び拡充され、**令和2年度は4部2室177名体制**



注) 職員数は定員

図5 組織の変遷

○ 設立50周年記念事業

○ 設立50周年記念事業

- ・名古屋高速道路に関わるすべての皆様に感謝の気持ちを伝えるとともに、これからも名古屋の街を支える名古屋高速道路公社であり続けられるよう「**ありがとう50年 これからもこの街と**」というキャッチフレーズを掲げ、**設立50周年記念事業を実施**
- ・名古屋高速道路公社と同じく、本年に開学50周年を迎えた**名古屋芸術大学とコラボレーション(共同)した企画を展開**

名古屋芸術大学とのコラボレーション企画

○ラッピングアート・ロゴマーク・イメージソングは、名古屋芸術大学の作品

橋脚ラッピングアート



図6 橋脚ラッピングアートの実施状況
(若宮大通公園〔矢場町交差点〕)

第20回アジア競技大会(2026年/愛知・名古屋)の競技種目と名古屋の街のイメージを融合させたアート作品を名古屋高速道路の橋脚にラッピングし、地域の魅力向上と賑わいの創出で活気あるまちづくりに貢献

設立50周年記念ロゴマーク



図7 設立50周年記念ロゴマーク

50年間の「ありがとう」の気持ちを伝えるとともに、これからも地域の皆様やこの街と寄り添っていく高速道路であり続けるという思いを表現

公社イメージソング

「君と行きたい」



四季を通じて「名古屋高速を走れば、遠くからでも名古屋の色々な場所に行ける」という想いを大切にしたい元気いっぱいの生き生きした曲

図8 歌唱グループ「Rue * Claire」(名古屋芸術大学)

特設Webサイト



設立50周年記念事業のポータルサイト

(コンテンツ)

- ・ごあいさつ
- ・50年のあゆみ
- ・整備効果
- ・イベントのお知らせ
- ・名古屋芸術大学コラボ

図9 設立50周年記念特設Webサイト

名古屋高速道路公社50周年記念ソング

「Highway」



ZIP-FM「JOYFUL」内のコーナーで「名古屋高速グッドエピソード」を募集し、SEAMOさんが名古屋高速道路公社50周年記念ソングを制作
リスナー、SEAMOさん自身の名古屋高速の思い出や未来への期待感の詰まった素敵な曲

図10 SEAMO

動物スポンサー(東山動植物園)



スマトラオランウータン「ネオ」
(写真提供:名古屋市東山動植物園)

地域貢献活動として、公社と同じ50歳を迎えるスマトラオランウータン「ネオ」の動物スポンサーに登録

図11 動物スポンサー看板(東山動植物園内)

ナコちゃん着ぐるみ



名古屋高速道路により親しみをもっていただくため、平成6年度から使用しているイメージキャラクター「ナコちゃん」の着ぐるみを本年度に作成し、PR活動を実施

図12 名古屋高速イメージキャラクター
ナコちゃん着ぐるみ

50年史の発刊

- ・これまでの歴史を振り返り、公社設立から名古屋市周辺の高速道路ネットワークの完成(令和2年度)までの沿革を通史として編纂
- ・あわせて、主に小・中・高生を対象として、イラストや写真を多用したわかりやすい別冊を作成
- ・令和3年度に発刊予定

2 名古屋高速道路の整備効果

(1) 移動性

- ・**高速性・定時性に優れる**とともに、周辺道路とのネットワーク効果が発揮され、スムーズな移動による**所要時間短縮で移動圏が拡大**

移動圏の拡大

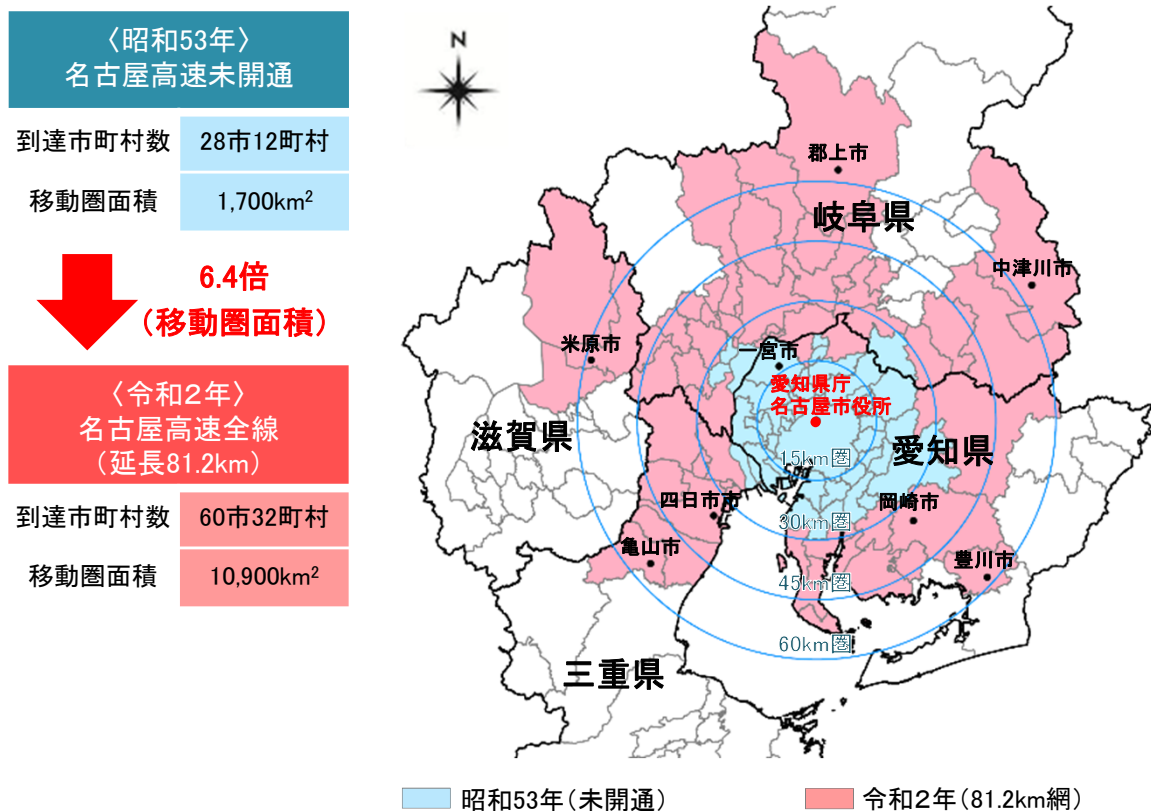
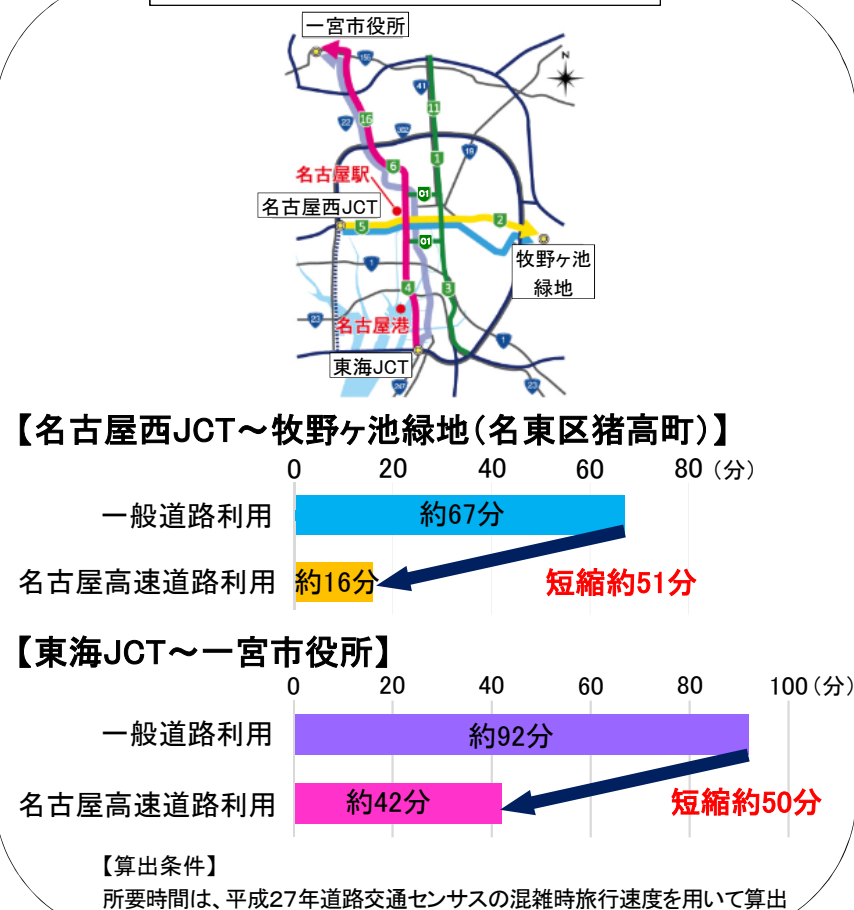


図13 自動車での1時間移動圏の拡大状況

時間短縮の例



(2) 経済

・名古屋高速道路が存在することにより、**中京都市圏の生産額が年間6,140億円増加**。生産額増加は、名古屋市を中心に発現し、高速道路ネットワークを通じて広域的に波及。**地域の経済成長に貢献**

生産額変化の地域分布

中京都市圏の生産額103.9兆円／年

名古屋高速道路があることで
中京都市圏の生産額
年間**6,140**億円増加※

名古屋市の生産額
年間**3,702**億円増加※

※ 三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株)による試算

中京都市圏:概ね東海環状自動車道の沿線及びその内側、知多半島の自治体を含めた地域(図の緑色着色部)

経済モデル:県民経済計算「内閣府」の経済活動別の分類をもとに、汎用型空間的応用一般均衡モデル(RAEM-Light)により算出

注)生産額変化が50億円増／年以上の自治体について表記

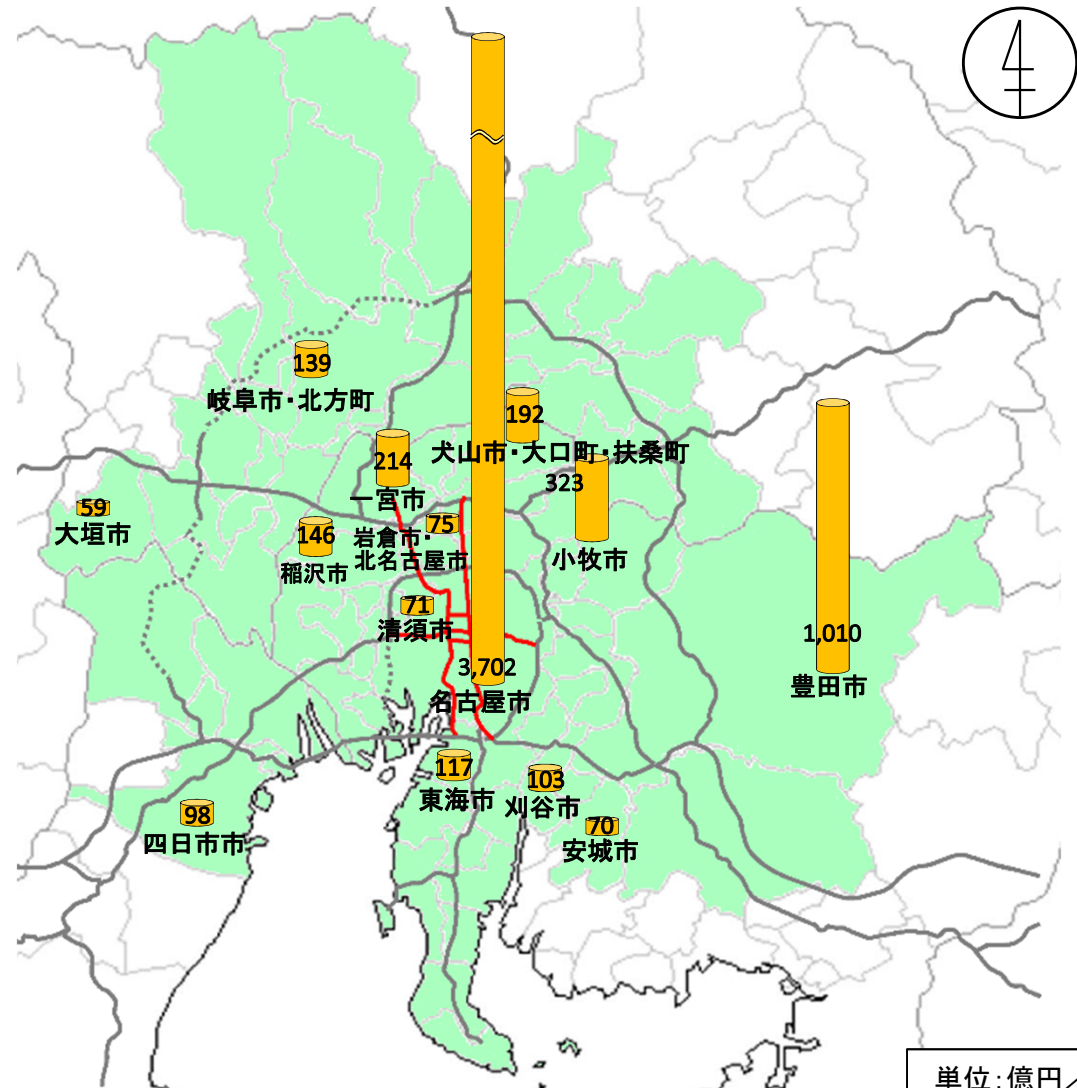


図14 経済モデル分析による生産額変化の地域分布

単位: 億円/年

(3) 環境

- ・名古屋高速道路の整備が、一定速度での走行や一般道路の渋滞緩和を実現し、環境負荷の低減に貢献
- ・名古屋高速道路を平均60km/hで走行した場合、自動車からの二酸化炭素(CO₂)排出量は、全て一般道路を走行した場合に比べ、**年間で約16万t**(名古屋市の面積の約半分に当たる森林が1年間に吸収するCO₂量に相当)が削減されると推計

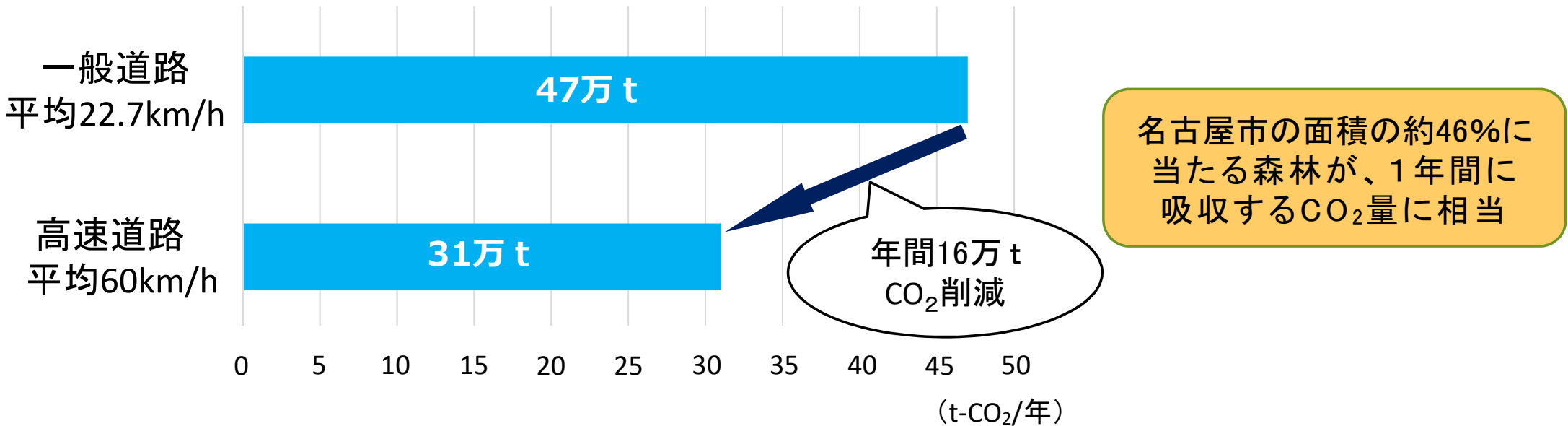


図15 年間CO₂排出量(平均利用台数33.9万台/日)

【算定条件】

名古屋高速道路の平均利用台数 33.9 万台/日(令和元年度実績)、平均利用距離 12.6km(令和元年度ETC車平均)、大型車混入率 13.6%(平成27年道路交通センサス)、名古屋市内の一般道路平均速度 22.7km/h(平成27年道路交通センサス)

【根拠資料】

CO₂排出係数:「道路環境影響評価等に用いる自動車排出係数の算定根拠(平成22年度版)」(国総研資料第 671号)

CO₂吸収量:「土地利用、土地利用変化及び林業に関するグッド・プラクティス・ガイド(優良手法指針)」による

(4) 交通安全

・交差点や信号のない自動車専用道路であるため、交通事故(人身事故)に遭う確率を示す**死傷事故率は7.2件/億台km**と**名古屋市内幹線道路に比べ約20分の1**であり、交通事故(人身事故)の発生が低い状況

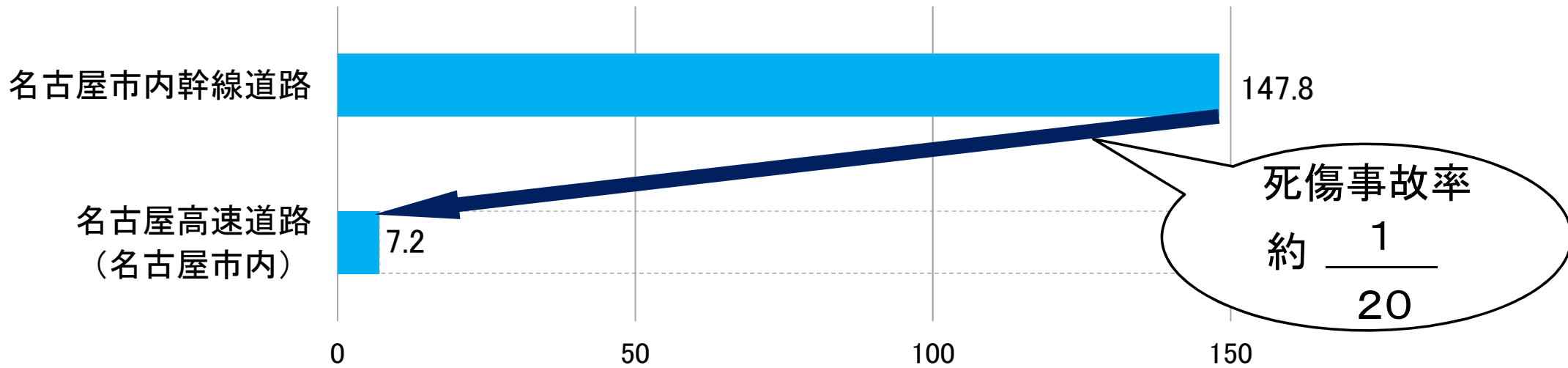


図16 死傷事故率※1 (件/億台km)

※1 死傷事故率：1万台の車が1万km走行した場合に起こる死傷事故件数を表す

【算定条件】 名古屋市内幹線道路は、平成27年道路交通センサス及び交通事故・道路統合データベースを基に算出
 名古屋高速道路は公社データ(平成27年)より算出
 名古屋市内幹線道路:名古屋市内の一般国道、主要地方道、一般県道、センサス対象指定市(名古屋市)一般市道を対象

交通安全対策の例



図17 東片端JCT北カーブのカラー舗装



図18 大高出口の誤進入対策及び逆走車対策

(参考) [事故件数(令和元年)] (件)

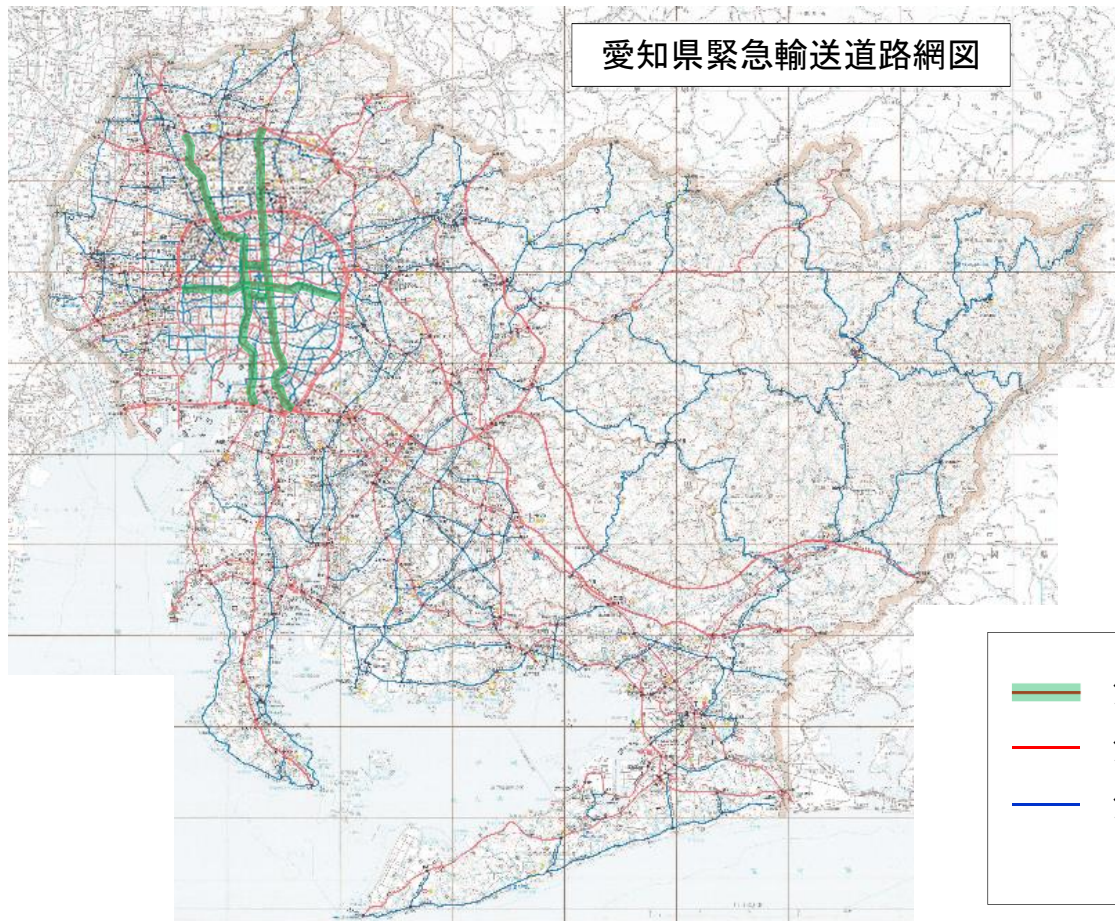
項目	人身事故	
	死亡事故	
愛知県内※2	30,836	153
名古屋高速道路	80	1

H30.1～R1.12の事故件数

※2：出典) 交通事故・道路統合データベース

(5) 防災

- ・名古屋高速道路は、愛知県地域防災計画で全線が**第一次緊急輸送道路**に指定されている重要な路線
- ・災害発生時において、名古屋高速道路を活用した円滑かつ確実な緊急輸送(救助、救急等に必要な人員及び物資等の輸送)が可能



・緊急輸送道路

地震直後から発生する緊急輸送を円滑に行うため、高速自動車国道、一般国道及びこれらを連絡する幹線道路と知事が指定する防災拠点を相互に連絡する道路

第一次：県庁所在地、地方中心都市及び重要港湾、空港等を連絡し、広域の緊急輸送を担う道路

第二次：第一次緊急輸送道路と市区町村役場、主要な防災拠点(行政機関、公共機関、港湾、災害医療拠点、自衛隊等)を連絡し、地域内の緊急輸送を担う道路

- 第一次緊急輸送道路(名古屋高速道路:81.2km)【6.1%】
- 第一次緊急輸送道路(名古屋高速道路以外:1244.5km)【93.9%】
- 第二次緊急輸送道路(1517.2km)

【 】内は、第一次緊急輸送道路1325.7kmにおける構成比

(供用道路分・平成29年12月時点)

図19 愛知県緊急輸送道路網図

Ⅱ “これから”の名古屋高速 ～未来の姿～

1 料金の抜本的変更

- ・第1期開通以来の均一料金制から、**対距離料金制**を基本とした新たな料金体系へ移行
(令和2年3月31日 国土交通大臣認可)
- ・**名二環(名古屋西JCT～飛島JCT(仮称))の開通に合わせた移行**に向け、**着実に準備**

名古屋高速道路の新たな料金の概要

・対距離料金制の導入、車種区分の変更

車種区分	現行料金	車種区分	新たな料金
普通車 (軽・二輪) (中型車)	名古屋線 780円	軽・二輪	290円 ~ 1,110円
	尾北線 370円	普通車	290円 ~ 1,320円
大型車 (特大車)	名古屋線 1,570円	中型車	290円 ~ 1,530円
	尾北線 730円	大型車	300円 ~ 2,010円
		特大車	310円 ~ 3,160円

名二環の開通に合わせて

均一料金制から

対距離料金制へ移行

・割引の見直し

- [新規] ETC都心環状割引 ※
- [継続] 名高速ETCコーポレートカード割引、ETC夜間割引(中型車以上)
- [終了] ETC端末特定区間割引、ETC日曜・祝日割引、ETCマイレージサービス

※ 高速都心環状線利用者の分散導入を図ることを目的とした割引

◎ 非ETC車(現金車等)は、原則として入口から利用できる最大料金

・経路によらない同一料金の導入

注) 適用には諸条件あり

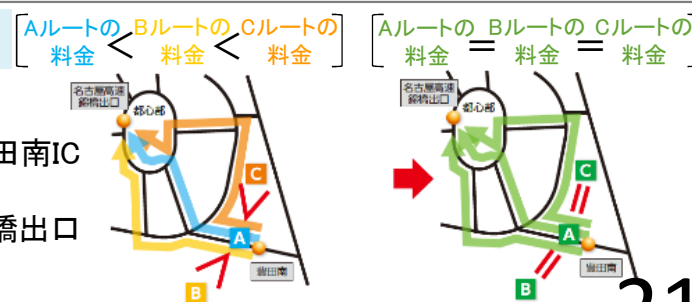
起終点を基本とした
継ぎ目のない料金

(例) 名古屋高速 西春入口
↓
伊勢湾岸道 豊田南IC



都心部への分散流入

(例) 伊勢湾岸道 豊田南IC
↓
名古屋高速 錦橋出口



今後の取り組み

・お客様への周知・広報

〔 マスメディア(ラジオ、新聞)・インターネット(SNS、WEB広告等)を始め、横断幕、立看板、ポスター、リーフレット等の様々な媒体を活用するとともに、経済団体等への出張説明会の開催など新たな料金体系の周知・広報をきめ細かに実施 〕

・ETCへの移行促進

〔 現金でご利用のお客様へのETC移行促進を目的とし、中日本高速道路(株)及び名古屋高速道路公社の2社合同で車載器購入助成キャンペーンを実施予定 〕

【キャンペーン予定メニュー】

ETC2.0車載器購入助成

(助成規模) 10,000円(税込) × 先着50,000台を予定

(対象地域) 東海3県(愛知県、岐阜県、三重県)に所在するキャンペーン取扱店で実施予定

「中京圏の新たな高速道路料金について」令和2年3月31日
(中日本高速道路(株)・名古屋高速道路公社)

→ 上記予定メニューを基本とし、さらなる拡充を検討中



・道路交通情報提供の充実

〔 出発前から高速道路利用時にいたる各段階において、各種媒体により、所要時間情報等、経路選択支援の情報提供の充実を図る。 〕



名古屋南JCTまで 45分 Nagoya-minami
東海JCTまで 25分 Tokai

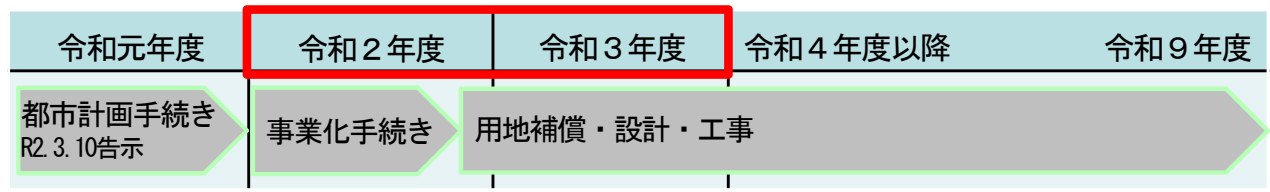
図20 道路情報板による所要時間情報の提供
(高速都心環状線 鶴舞南JCT手前:現状)

2 リニア中央新幹線の開業に向けた建設事業の始動

・全線(81.2km)開通後の新たな建設事業として、令和9(2027)年のリニア中央新幹線開業を見据え、お客様の利便性向上や地域経済の活性化推進に向けて、**都心へのアクセス向上**に取り組む。

(仮称)新洲崎出入口及び(仮称)新黄金出入口の整備

新洲崎出入口・新黄金出入口の事業スケジュール



令和2年7月20日	整備計画変更許可	概算事業費	17,470億円(570億円増)
令和2年10月22日	都市計画事業認可	完成予定年度	令和9年度



図21 都心アクセス関連事業図(名古屋市作成)

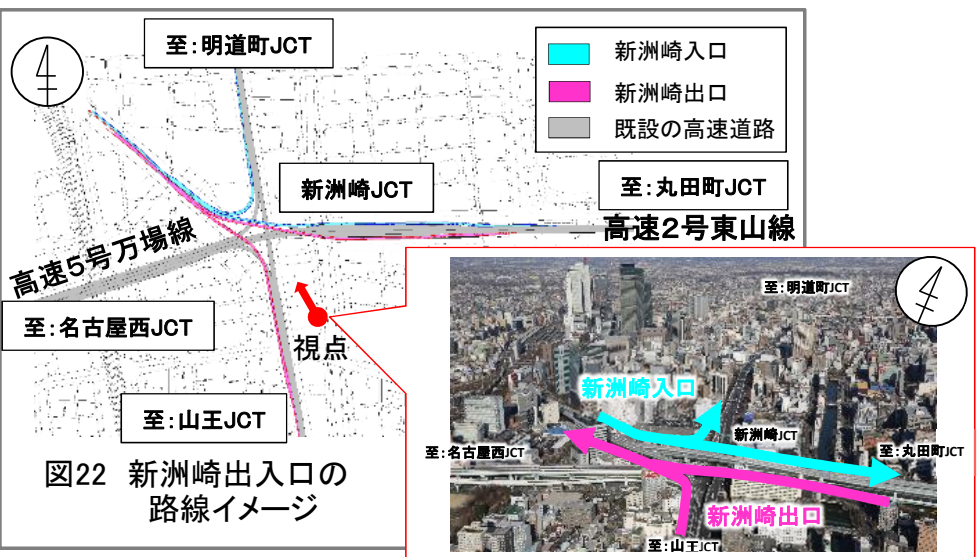


図22 新洲崎出入口の路線イメージ



図23 新洲崎出入口(完成イメージ)

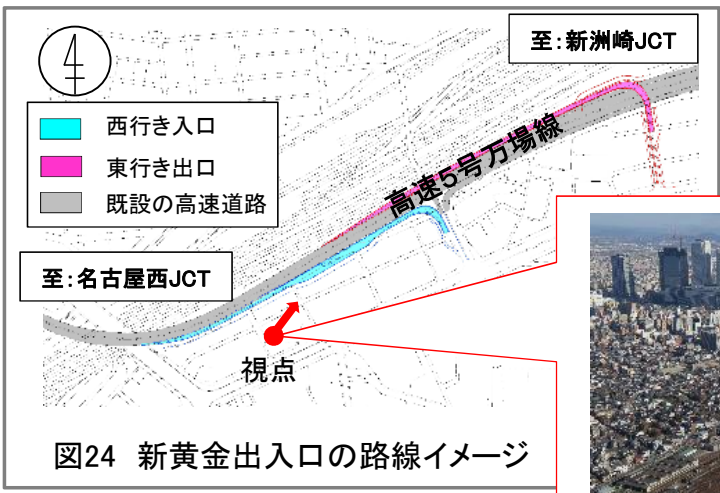


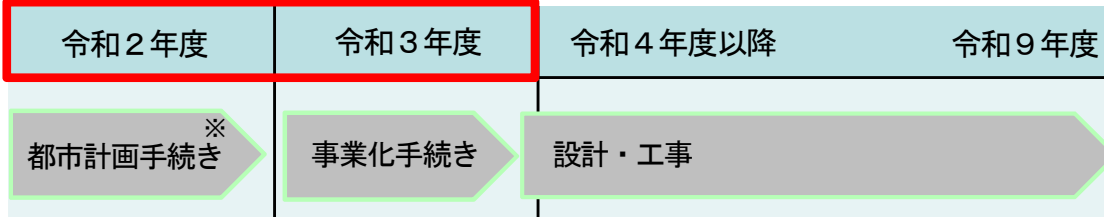
図24 新黄金出入口の路線イメージ



図25 新黄金出入口(完成イメージ)

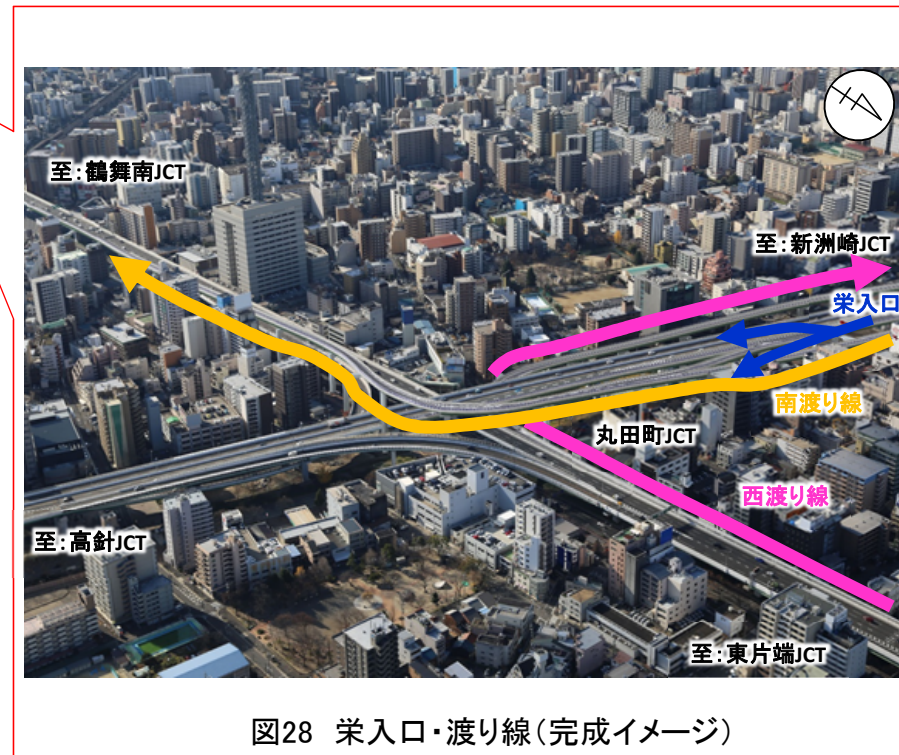
栄出入口、西渡り線、南渡り線の追加

栄出入口・西渡り線・南渡り線の事業スケジュール



令和2年9月 名古屋市が地元説明会を開催し、都市計画手続きに着手
 令和2年度内 名古屋市都市計画審議会(予定)
 都市計画変更(予定)
 令和3年度 整備計画変更、都市計画事業認可(予定)

※ 栄出入口の設置に伴って改築が必要となる都市計画駐車場についても併せて実施



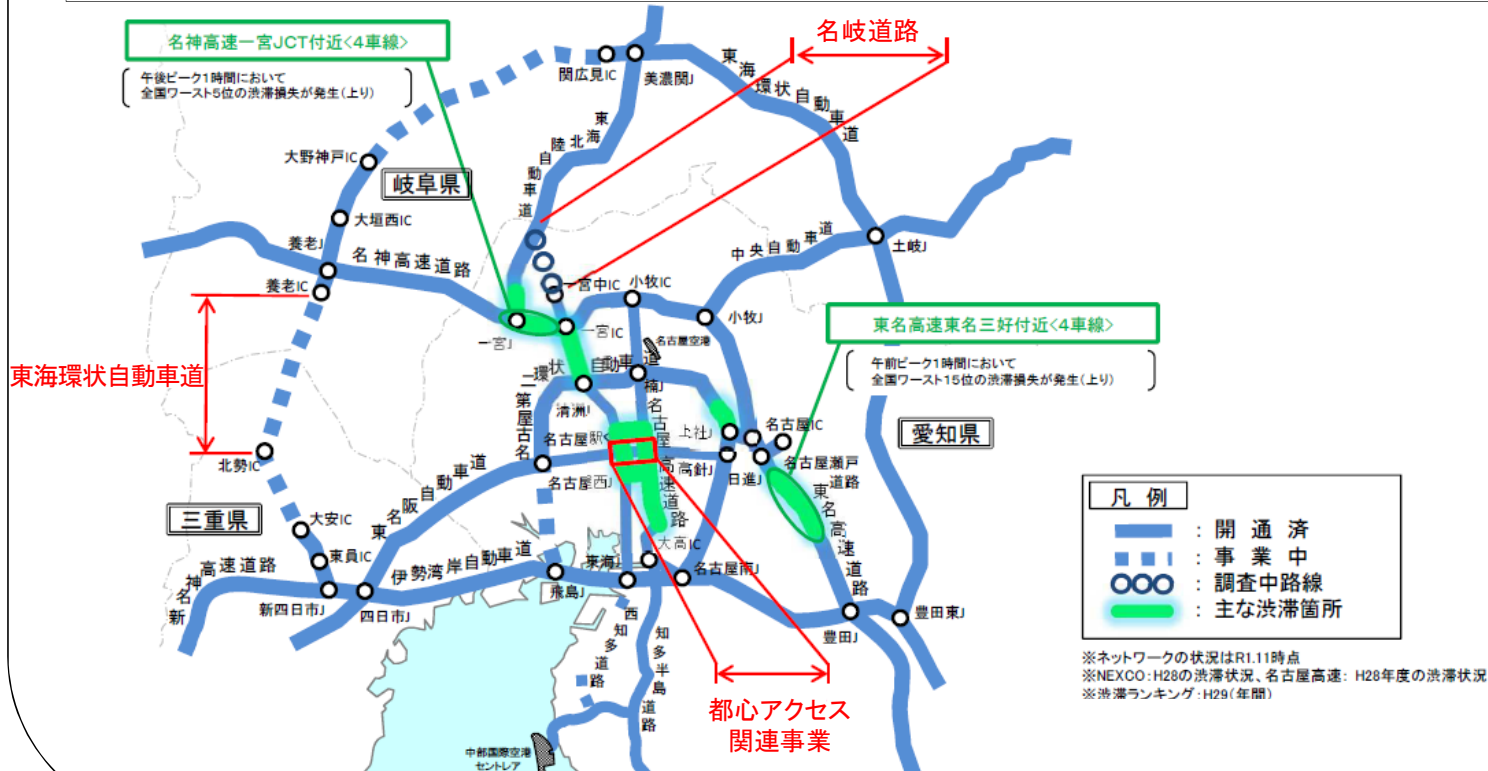
3 広域ネットワークの充実と利便性の向上

- ・**名岐道路**については、「中京圏の新たな高速道路料金に関する具体方針(案)」(令和2年2月 国土交通省)において「名古屋高速道路公社が事業主体となることを前提とした上で」と記載された。関係機関における今後の議論を注視しつつ、**準備**をしていく。

名岐道路

中京圏内の高速道路ネットワーク整備

- 名古屋高速については、都心アクセス関連事業や名岐道路の整備に必要な財源確保にあたり、事業主体の責任を明確にした上で税負担も活用しつつ、現状の償還期間を延長。



■ 地方道路公社の償還期間の延長

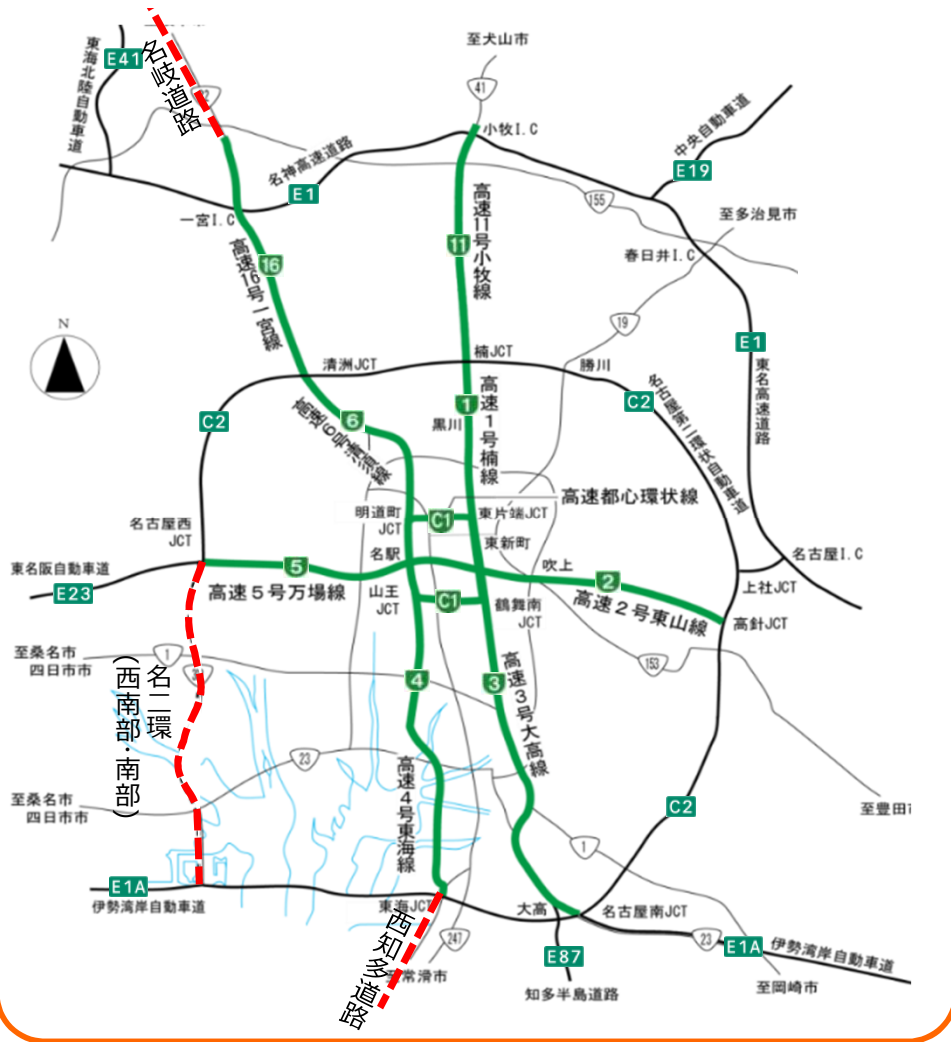
令和2年4月に、有料道路整備資金貸付要領における地方道路公社の償還期間の上限が40年から60年に延長された。

出典 「中京圏の新たな高速道路料金に関する具体方針(案)」(令和2年2月5日国土交通省)

・現状ネットワークの評価・課題を踏まえ、国・愛知県・名古屋市・NEXCO中日本とともに、**更なる利便性向上につながる取り組みを検討**

利便増進

**具体的な検討や事業が進められている
名古屋高速道路を取り巻く周辺道路**



1. 名古屋高速道路のネットワークの評価・課題整理

(1) ネットワークの評価・分析

- ・現状の各種データ収集・整理
- ・将来計画（道路計画・交通量等）に関する資料の収集・整理
- ・現状及び将来ネットワークの評価・分析（円滑性・安全性・快適性等）



(2) ネットワークの課題整理

- ・交通の円滑性、安全性、快適性、利用促進の観点から、ネットワークの課題を整理
- ・現状、将来計画、新たな課題など、一連の流れを整理



2. 利便性向上案の検討

(1) 必要となる利便性向上案の方向性の検討

- ・他の高速道路における事例を収集・整理し、名古屋高速道路における適用性を検討
- ・ハード面（道路構造、付属施設等）、ソフト面の両面から利便性向上案を抽出
⇒利便性向上案について施策別に整理
例) 出入口ランプの追加、JCT機能の強化、休憩施設の検討 等



(2) 利便性向上が必要な検討箇所の抽出

4 未来に向けた着実な取り組み

(1) 安全・安心への取り組み

① 防災・危機管理

- ・南海トラフ巨大地震の発生の可能性が高まっている状況において、社屋の改修、防災拠点の電源確保、津波浸水対策、防災訓練等により、**防災機能の強化を継続的に実施**
- ・新型インフルエンザ等発生時の業務継続計画（BCP）の新規策定等、引き続き、**危機管理を強化**



図29 整備部社屋改修状況
増築部分の工事完了
(令和2年8月末)



図30 BCP用電源整備事例
(平成27年度)



図31 変電塔の津波浸水対策状況
土嚢による対策
(令和2年3月末)



図32 防災訓練(道路啓開、本部運営)実施状況
(令和2年8月)

新型コロナウイルス感染症への対応 (令和2年2月)

- ・料金収受会社事務員及び収受員の感染により、高速4号東海線・高速5号万場線の6料金所を最大4日間にわたって一時閉鎖
- ・ETC車両限定で順次開放し、14日間で通常運用に復旧



図33 ETC車両限定通行可能時の状況
(六番南料金所)



図34 料金所における消毒の状況
(船見料金所)

② メンテナンス事業

- ・名古屋高速道路の構造物の高齢化が進行
- ・大規模修繕やリフレッシュ工事等を計画的に実施し、ライフサイクルコストの低減を図りつつ、将来にわたって長期的に構造物の安全性を確保

名古屋高速道路の経過年数

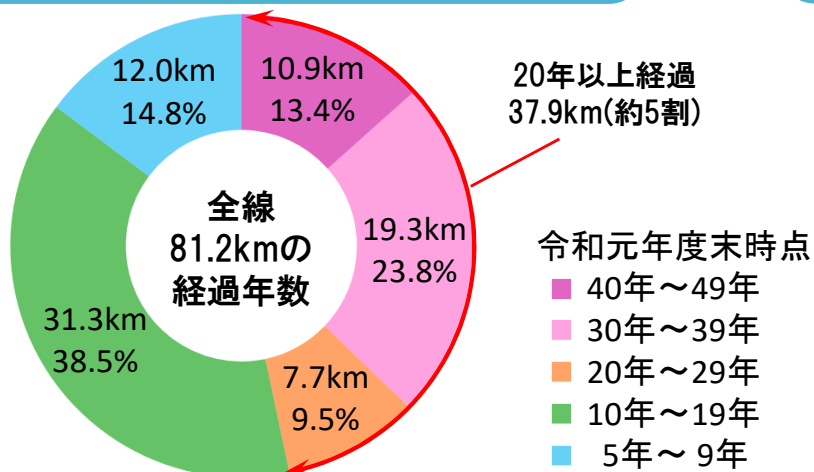


図35 名古屋高速道路の経過年数

大規模修繕

大規模修繕：構造物の大規模な更新を回避し長寿命化を図るため、主要構造物全体に対して実施する大規模な補強・補修



図36 コンクリート床版下面(補強前)

延長	約37.9km
概算工事費※1	約1,250億円
事業実施予定年度	平成27年度～令和11年度(15年間)

※1 別途諸経費が必要
 ※2 大規模修繕対象箇所(37.9km)のうち、床版下面からの修繕が完了した供用延長の割合

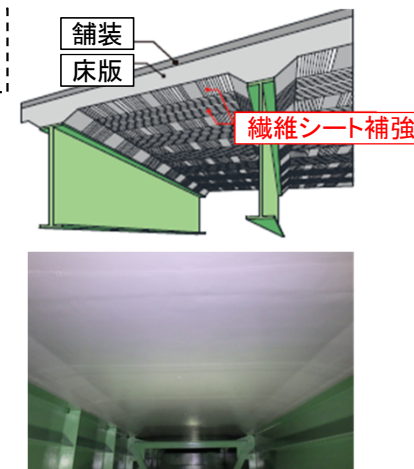


図37 繊維シートによる補強後

完了延長 ※2 38% (令和元年度末)

リフレッシュ工事

リフレッシュ工事：集中的な舗装の打ち換えに合わせて、道路付属物等の補修、安全対策、点検等を集約して実施する工事

令和2年10月31日～11月7日
 高速都心環状線
 (鶴舞南JCT→明道町JCT)



図38 舗装撤去の状況



図39 アスファルト舗設の状況



図40 リフレッシュ工事の完了

(2) 持続可能な社会の実現に向けた取り組み

① SDGs・ESG

- ・中期経営計画(2019-2021)の施策を推進することを通じて、交通安全対策、強靱で質の高いインフラの構築、環境の改善等を図り、**SDGsの達成に貢献**
- ・令和元年度に金融機関からの借入について、**ESG評価型融資を導入**。市場公募債についてもESGを重視した債券の発行を予定(令和2年10月に第三者評価を取得)

SDGs



2015年の国連サミットで採択された、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標



経営理念(基本理念・基本方針)

中期経営計画(2019-2021)において関連するSDGs

- (1) さらに使いやすい名古屋高速
～元気な「名古屋都市圏」づくりへの貢献～
- (2) さらに確かな名古屋高速 ～安全・安心の徹底～
- (3) さらに走りやすい名古屋高速
～快適さとサービスの向上～
- (4) 社会的責任の遂行
- (5) 経営基盤の強化



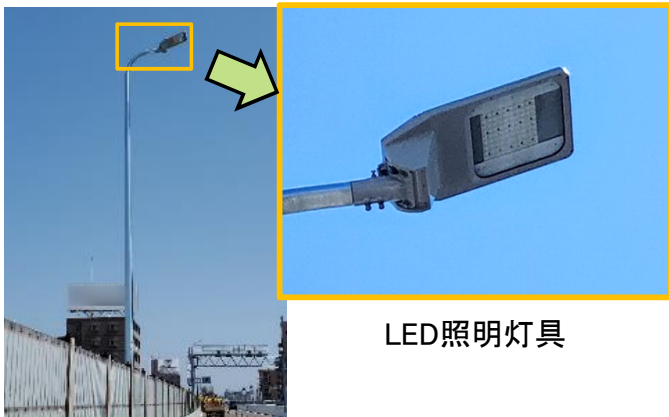
ESG評価型融資

従来の財務情報だけでなく、環境(Environment)、社会(Social)、企業統治(Governance)への取り組みで評価し、結果が一定以上の企業が対象となる融資



② 環境保全

- ・道路照明のLED化、エコドライブ啓発など環境への影響を軽減する対策に取り組むとともに、生態系や景観に配慮した環境保全を実施
- ・今後も環境に関するSDGsの理念に沿って、取り組み内容の充実や拡大に努める。



LED照明灯具

図41 LED照明(高速5号万場線)



図42 エコドライブ啓発(道路情報板掲出)



図43 横断幕の再利用(ネームプレート)



道路照明の光が名古屋城の外堀に生息するヒメボタルへ届かないよう、パイプ照明を採用

図44 高速都心環状線(一部区間)のパイプ照明



図45 緑橋換気所(東山公園内)の壁面緑化

(3) 新技術・データ活用

MaaS (Mobility as a Service) : 地域住民や旅行者一人一人の移動ニーズに対応して、複数の公共交通やそれ以外の移動サービスを最適に組み合わせて検索・予約・決済等を一括で行うサービス

- ・情報通信技術 (ICT) 等の技術革新に対応し、点検・修繕を始めとした**メンテナンスの高度化・効率化**や**道路交通情報提供の充実**などに取り組むとともに、自動運転やMaaSに関する調査・研究に協力
- ・職員と組織の能力を最大限発揮できるようICT等を活用して**新たな働き方への取り組みを推進**

広視野角カメラによる点検



広視野角カメラ



図47 広視野角カメラによる路面変状の拡大写真
取得データ

3次元点群データ



図48 3次元点群データ等の取得イメージ



図49 3次元点群データ模様(楠JCT)

ETC2.0※による渋滞回避支援 (静止画等の提供)

カーナビ等の表示画面



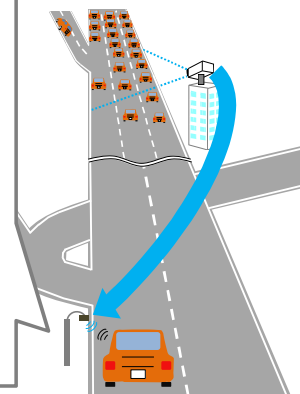
広域の道路交通情報
を表示
従来の通信方式と比べて手前から渋滞を避けるルートが選択可能

図50 簡易図形情報イメージ



図51 静止画イメージ

走行ルート前方の渋滞状況を静止画で確認可能
高速道路に近接するビルの屋上から撮影した静止画の配信は名古屋高速道路が全国初



ICTを活用した働き方改革

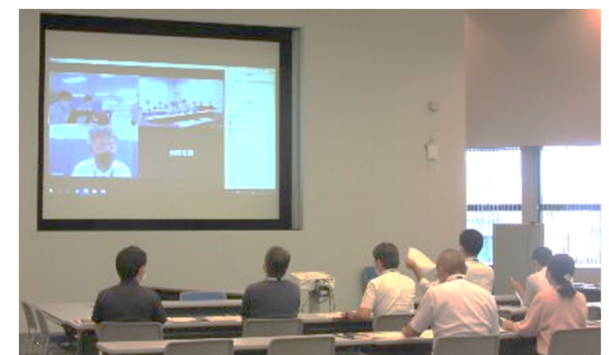


図52 ビデオ会議の状況

※ETC2.0 : 従来のETC車載器の機能 (高速道路料金の支払い) に加えて、様々なサービスが利用できるもの。

(4) お客様サービスの向上

・引き続き、お客様の声に耳を傾け、**お客様サービスの一層の向上**を図るとともに、職員による出前講座など**積極的な地域社会との交流**や多様な媒体による**的確でわかりやすい情報発信**の取り組みを推進

お客様の声の反映

お客様からお寄せいただいたご意見・ご要望を公社全体で共有・分析し、お客様ニーズに基づいたサービスの充実や改善に反映

中部国際空港への案内標識の変更(令和元年度実施事例)

(公社ホームページ“お客様の声”を形にしました)より)



お客様の声

丸の内出口手前の中部国際空港への案内標識が、第1車線(一番左側の車線)上に直進と案内してあるが、第1車線をそのまま進むと小牧方面(県営名古屋空港)に行ってしまう。



リフレッシュ工事に合わせて、案内標識の設置位置を変更。(令和元年10月)

地域社会との交流



図53 小学校向け出前講座の様子

SNSによる情報発信



図54 名古屋高速公式facebook(左)及び公式twitter(右)

お客様満足度(令和元年度)

総合満足度*

3.71 に向
(平成30年度 3.63)

※総合満足度：お客様満足度調査による5段階評価の点数

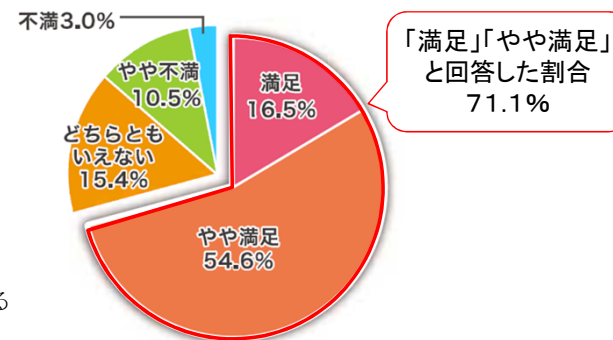


図55 令和元年度お客様満足度の調査結果